

# 2019年度 第2回職員研修 実施報告

日 時 2020年2月16日(日)

場 所 翔の会 水平線

研修対象者 県重心協加盟施設に勤務する職員(経験年数・職種問わず)

テーマ 「利用者のより豊かな生活を目指して」  
(個別支援計画作成を主にグループディスカッションを行う)

ねらい ○重症心身障害児者支援の基本ある個別支援計画について学び、利用者本人の「思い」に寄り添った支援について考える。  
○現場における支援者地震の支援方法・内容を振り返る機会にする。  
○経験年数を問わないことで、様々な視点での意見交換を行い、個別支援計画について学ぶ場とする。

受講者 県重心協加盟施設 11施設から 21名の参加

## まとめ

架空の事例を基に、本人の地図、ニーズ整理表を活用して、より豊かな生活をする為に地域のサービスの洗い出しなど行ないながら、本人の思いに添った個別支援計画などをグループで作成し発表しました。21名が4グループに分かれ、入所・通所とおかれている立場の違う経験年数1年未満の新人から15年以上のベテラン職員が参加され、それぞれが知らないサービスを知り、サービスの選択に広がりがありました。またストレングスを生かし、本人の主体やベスト・インタレストを探していく工程もグループで活発な意見交換により思いを膨らませる気づきがたくさん挙がりました。3年連続で架空の事例からどの立場で計画を立てるのかを話し合いましたが、今回は3グループが個別支援計画書、1グループがサービス等利用計画を発表し、同じ事例でも視点を変えながら作成できることを学びました。

アンケートでは、下記の意見が挙がりました。(アンケート一部抜粋)

- ・「今まで支援計画を作成することが苦手だったが、今回参加して個別支援計画とサービス等利用計画の違いや福祉サービスや考え方などを知ることができて良かった」
- ・「はじめはいろいろな意見がでると思ったが、逆に似たような意見が出たことで『自分はこう思う』など同調したり考え方を変えたりすることができた。入所施設なので通所やヘルパー利用など思いつかなかったことが知れてよかった」
- ・「チームとして考えていく意識が強かったので、各々の思う汲み取り方や考えか方がフラットな視点で皆から出せていたと思います。」